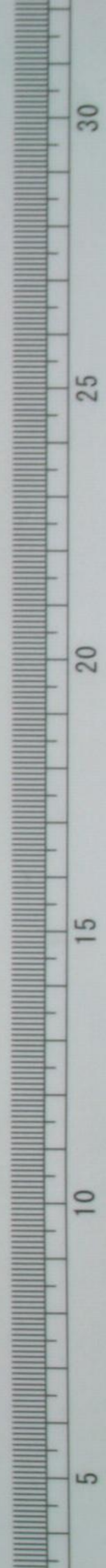


自傳資料

五

特別
14
1919
755



14
1919
255

176915

自叙傳資料

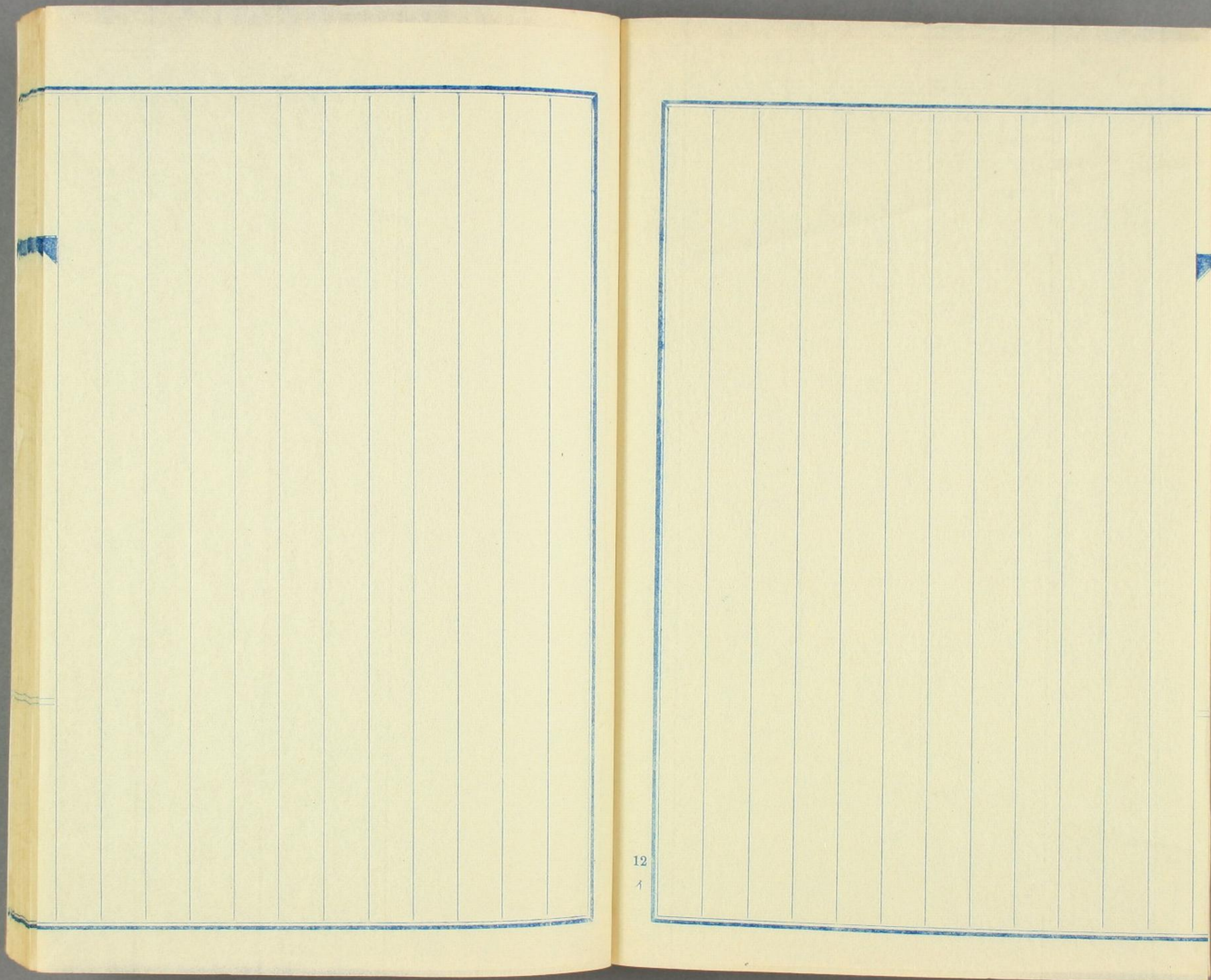
大正七年十月中浣日記

余と早稲田大子

今又閑を得て自傳を立て筆紙四冊をし
 早稲田大子と親交の事に述ぶる事をし
 あること数日、蓋し早稲田の終極の事
 又在り而して一年故に迄の事を記す
 今、北河内等の地抑々に終つては六十年
 を此方面に用ゐるに堪うる以つては今の事
 今、漸やくに復る事を、又も筆を
 續けん事也

余の早稲の大家の關係すること三十餘年、
因らば、晩年、後橋、沼中の人と、
（注） 福ん、又勅、
とき及勅を生し、（注） 偶々、余が早稲の大家
受り、（注） 關係すること長く且の深し、
と意味する七の也、余の、後橋、沼中の、
と、（注） 終身、
先け、余又終身、
辭し、（注） 然るも、
し、（注） 然るも、
く、（注） 然るも、
ま、（注） 然るも、
早稲の大家と余との

關係を叙する、此の、
七可なり、是れ余の、
以也、
大正七年十月十日の記



以下全て
白紙

